イチゴ「さがほのか」の定植苗不足を補うランナー子苗利用法

農業研究部　イチゴチーム

「さがほのか」を用いた栽培では、定植苗が不足した場合、定植苗から９月に発生するランナーの子苗を本圃に直接定植する方法が緊急避難的に生産現場で行われている。しかし、利用するランナー子苗の収量性は明らかにされていない。

そこで、慣行の定植苗（以下、定植元苗と記す）から発生したランナーに着生させた子苗（以下、ランナー子苗と記す）の生産性と利用方法を明らかにした。

【普及したい技術のポイント】
①７月下旬～８月上旬に発生したランナー子苗を１個残し、本葉４～５枚で本圃に定植すると定植苗の80%程度の収量が得られ、苗不足による収量減を軽減できる。

【研究成果の内容・留意点】

①８月発生ランナー子苗は慣行苗と同等の時期に頂果房が出蕾するが、９月に発生したランナー子苗の頂果房出蕾は約１ヶ月遅くなる（表１）。

②８月発生ランナー子苗は年内および２月まで収量は定植元苗と同等で、９月発生ランナー子苗は定植元苗よりも劣る（表１）。

③ランナー子苗の葉数が４～５枚の時に定植すると、慣行苗と同等の時期に頂果房が出雷する。但し、頂花房花数は慣行苗より少なく、年内および５月まで慣行苗の80%程度の収量である（表２）。

④定植元苗から目標とするランナー子苗を確保したら、その先に発生する二次子苗やランナーは摘除し、子苗を本圃にランナーピンで固定して定植する（図１）。

⑤留意点：定植時に本葉４枚未満のランナー子苗は、頂果房の出蕾や収穫開始が遅くなり、収量が少なくなる。

表１　ランナー子苗の発生時期が出蕾と収量に及ぼす影響（2008年）

ランナー発生時期		頂果房 出蕾日	頂果房 花数	可販果収量（g/株） 年内	可販果収量（g/株） ２月まで	可販果収量（g/株） ５月まで
9月	元苗	10/20a	12.6	102a	321a	669
	子苗	11/20b	10.2	6b	217c	594
8月	元苗	10/21a	12.8	71a	311a	699
	子苗	10/24a	10.8	73a	307ab	713
慣行苗		10/25a	11.3	74a	320a	709
分散分析結果		＊	N.S	＊	＊	N.S

注）分散分析結果：＊：5%水準で有意差あり，N.S：有意差なし
相互に共通のｱﾙﾌｧﾍﾞｯﾄ記号を持たない平均値間には5%ﾚﾍﾞﾙで有意

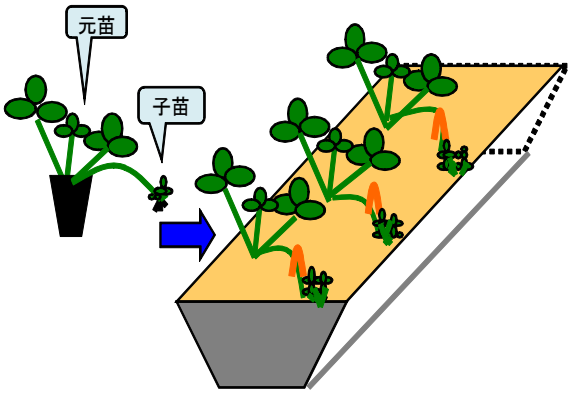

図１　ランナー子苗定植の模式図

表２　子苗定植時の葉数が頂花房の出蕾日，花数および年内収量に及ぼす影響(2009年)

苗の種類	処理区	定植時の葉数（枚）	頂花房 出蕾日（月/日）	頂花房 花数（個/株）	年内収量 可販果果数（個/株）	年内収量 可販果果重（g/株）	年内収量 全平均果重（g）	5月まで収量 可販果果数（個/株）	5月まで収量 可販果果重（個/株）	5月まで収量 全平均果重（g）
子苗	3～4枚	3.2	10/30a	11.9c	3.8a	80a	20.9ab	42.4	731b	16.0
	4枚	4.1	10/24b	9.3ab	4.0a	78a	18.8bc	39.8	699b	16.7
	4～5枚	4.5	10/19c	7.8a	6.4b	105ab	16.2c	41.1	729b	16.7
元苗			10/20bc	10.9c	5.2ab	120b	23.0a	45.4	804ab	16.8
慣行苗		—	10/20bc	11.4c	6.0b	128b	21.0a	53.0	870a	15.4
分散分析結果			＊	＊	＊	＊	＊	N.S	＊	N.S

注）分散分析結果：＊：5%水準で有意差あり，N.S：有意差なし
相互に共通のｱﾙﾌｧﾍﾞｯﾄ記号を持たない間に5%ﾚﾍﾞﾙで有意